

生涯学習センターの動向

<生涯学習センターの講座>

新見肇子

2009年度は、目白と西生田のセンターが統合され、新しく「生涯学習センター」(LLC)として発足して2年目にあたる。センターの活動の目的は従来通り、在学生、卒業生、一般市民の方々を対象に、学内外の生涯学習と連携しながら、本学の知的財産・教育的資産を社会に開放することであった。両地区において、これまでの活動実績を生かしつつ、多様化したニーズに応えられるさまざまな講座を提供すると同時に、昨今の厳しい就職戦線に鑑みて、在学生のためのキャリア支援講座の充実をはかった。文京区・川崎市との地域連携を継続的に推進し、地域社会への貢献にも努めた。

昨年度に引き続き試みとしては、社会貢献度が高い講座、本学および LLC の広報に繋がる特別講演会を両キャンパスで実施した(受講料無料)。目白では、前期に弁護士住田裕子氏による「次の世代へのメッセージ 今私にできること—今後の課題を考える」、後期には本学出身のノンフィクション・ライター吉廣紀代子氏による「アンチエイジング—老いの楽しみ、味わい方」という特別講演会を実施した。西生田では、特別講演会として、俳優・川崎市教育委員中本賢氏による講演「身近な地球を知っていますか?」、社会貢献性の高い講座としては、「西生田キャンパスの森の保全」という講座を実施した。

2009年度の新しい試みとしては、両地区が前後期に刊行する公開講座案内のパンフレットの体裁や表紙のデザインなどを統一し、刷新をはかった。また2008年度版『年次報告』を創刊し、全般的な事業、地域との連携事業、札幌・福岡サテライトの活動、西生田の独自の活動である心理相談室や子育て支援事業などの報告やセンター規則および運営組織を掲載し、LLCの活動の全容を内外にご周知いただくことにした。

また目白では、「毎日学ぶ課外英会話」の受講者が年々増加し、既存の教室数では賄いきれなくなったこともあり、百年館4階の LLC の既存施設を利用して、教室として利用できるよう改修した。そのため他の講座開講にも可能性が広がった。西生田では、川崎市との連携講座が2008年度の8講座から2009年度は20講座になり、川崎市民の生涯学習に寄与できた。両センターとも、今後ますます地域連携を強化し、受講者の関心に応える新しい事業を展開する努力を続けていきたい。

なお、2010年4月から生涯学習センターに「リカレント教育課程」が併合された。

(にいみ はつこ 文学部英文学科教授・生涯学習センター副所長)

<リカレント教育課程>

ソーントン不破直子

リカレント教育課程の授業と再就職支援は前年度と変わりなく行われた。2009年度の大きな動きは、年度末の2010年3月末日をもってGPを終了し、4月1日より文科省の委託事業というステータスから日本女子大独自の事業となって継続されることとなったため、組織上、運営上のさまざまな変革を取り決めたことである。

大学内の組織としては、生涯学習センターに所属することとなった。センターはそれまでは教養、キャリア支援の資格取得、外国語、地域・社会貢献などの講座を提供していたが、ここに並列してリカレント教育課程が位置する。さらに大学は桜楓学園の建物の一部を改装して、当課程専用の教室と事務スペースを確保してくださった。事務はGPの頃と変わらず行われたが、センター所属になることによって、必要に応じてセンターの事務職員の助けを借り、さらにGPの頃は私が一人で文科省委託金という小さなお財布でやりくりしていたのが、すっかり大学の経理に組み込まれ、私はその苦勞からも解放された。ただ、2010年度になっても時々突然文科省が、現状の報告書や作表を要請してくる。そのたびにGP時代の絶え間ない計画書・報告書作りの悪夢を思い出してぎょっとするのだが、GP終了後も関心をもっていただいていることを感謝すべきであろう。

受講料は、GPの頃は年額14万円だったが、本学独自の経営となるにあたって年額24万円と入学手数料1万円とした。しかしこれでも本学の学部入学時納付金の約6分の1であるから、大学はこの課程のために多くの負担をしているわけである。また授業科目の種類や教員もこれまでの経験を活かして、改善を加えた。

GP終了後も受講生数は、たとえば2010年9月入学の第7回生を例にとると、定員30名に対して応募者数40名、合格者数32名、入学者30名と比較的安定している。7回生の内訳は、本学卒業生はわずか4名で、残りすべて他大学卒業生である。年齢的には40代が最多で12名、30代9名、20代6名、50代3名となり、これはGP時代の回生の傾向と同じである。

就職あっせんに関しては、2008年のリーマン・ショック以降の不況の影響で、外資系企業からの求人が減ったが、その反面、東京商工会議所の強力な支援によって、これまであまり目を向けなかった中小企業の求人を得ることができた。これらの中小企業はリカレント修了生の経験と即戦力を有効に使うことができる、現実的な就職先である。この不況時に、2010年9月修了生まで、就職を希望する者が希望する就業形態で100%の就職率を変わず維持している。

最後に文科省GPであった「リカレント教育・再就職システム」3年間のデータをまとめたものを記載する。

<受講生・再就職データ（2007年度～2009年度）>

入学者数：1回生 30名、2回生 34名、3回生 27名

4回生 14名、5回生 37名（累計 142名）

年齢分布

	20代		30代		40代		50代		平均年齢
1回生	6	20%	10	33%	14	47%	0	0%	37.3
2回生	12	35%	10	29%	12	35%	0	0%	35.1
3回生	2	7%	7	26%	16	59%	2	7%	40.1
4回生	3	21%	5	36%	6	43%	0	0%	35.7
5回生	6	16%	12	32%	18	49%	1	3%	38.8
合計	29	21%	44	31%	66	46%	3	2%	37.4

既婚・独身

	既婚		独身	
1回生	16	53%	14	47%
2回生	20	53%	14	47%
3回生	20	74%	7	26%
4回生	11	79%	3	21%
5回生	25	68%	12	32%
合計	92	65%	50	35%

受講前の社会的身分

	会社員		主婦		非常勤・ 契約社員		不明		学生	
1回生	0	0%	13	43%	6	20%	11	37%	0	0%
2回生	4	12%	12	35%	6	18%	11	32%	1	3%
3回生	3	11%	13	48%	5	19%	5	19%	1	3%
4回生	1	7%	6	43%	4	29%	2	14%	1	7%
5回生	0	0%	21	57%	6	16%	10	27%	0	0%
合計	8	6%	65	46%	27	19%	39	27%	3	2%

出身大学

	日本女子大		他大学		他大学院	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1回生	29	96%	0	0%	1	4%
2回生	19	56%	13	38%	2	6%
3回生	9	33%	18	67%	0	0%
4回生	4	29%	9	64%	1	7%
5回生	11	30%	23	62%	3	8%
合計	72	51%	63	44%	7	5%

再就職状況

	07年	08年	09年	合計
就職希望者数	36	65	30	131
~~~~~				
正社員から正社員へと キャリアアップした者	4	2	0	6
起業した者	1	0	0	1
受講中に決定し、就職 した者	18	34	15	67
正社員／非正社員 へ転職を果たした者	2	13	3	18
無職から正社員／非 正社員となった者	11	16	12	39
当初就職を希望してい なかったが就職した者	5	0	0	5
合計	41	65	30	136*

*当初の就職希望者数の100%以上の就職率となった。

(そーんとんふわ なおこ 文学部英文学科教授・生涯学習センター所長)